

透析液製剤の管理使用方法による品質評価

東邦大学医療センター大森病院 臨床工学部¹ 腎センター²

○室市秀久 (ムロイ ヒデヒサ)¹ 津田圭一¹ 舘野琢哉¹ 元木康裕¹ 小山信彌¹ 大橋 靖²
酒井 謙² 水入苑生² 相川 厚²

【目的】

当院では、2種類の透析液製剤キンダリー-AF3号（以下 AF3）、カーボスター（以下 CAB）を使用しており、両剤の透析液原液（以下原液）を開封当日に使いきれなかった場合、蓋を閉めて翌日まで保存し再使用している。今回、AF3、CAB を使用して原液ノズルの洗浄方法が異なる、個人用透析装置 DBB-27（専用消毒システム）、DBG-02（用手水道水洗浄）を用いた場合の組成変化、生菌数の推移を検討した。

【方法】

検討Ⅰ）AF3、CAB を使用し DBB-27、DBG-02 で 3 時間透析を 3 日間行い、生菌数、ET 濃度、 HCO_3^- 、浸透圧の推移を測定した。

検討Ⅱ）原液開封後 1 ヶ月間、大気開放状態で生菌数、ET 濃度および B 原液の浸透圧推移を測定した。

【結果】

検討Ⅰでは両剤共、DBB-27 と DBG-02 使用時で HCO_3^- 、浸透圧の変化はなく ET 濃度の検出もなかった。しかし両剤共、DBG-02 使用時で生菌が確認された。

検討Ⅱでは両剤共、浸透圧変化もなく生菌数、ET 濃度は検出されなかった。

【結語】

透析液製剤の品質維持には専用消毒システムを用いた原液ノズル洗浄が有効であった。